



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

トルコ：大統領選挙の実施

2014年8月10日、トルコ全土で大統領選挙が行われた。2007年の憲法改正以降、初めての直接選挙となった。選挙前より、エルドアンが当選することは間違いないとの見方が大半であったが、汚職問題やその強権的な政治手法が批判の的となっていた。このことから、1回目の投票では決まらず、決選投票に持ち込まれるのではないかとの見方もあり、その動向が注目されていた。しかしながら、蓋を開けてみればエルドアンが半数以上の得票率を得て、勝利を収める結果となった。

地域別の結果を見てみると、過去数年の傾向と同様、地域ごとにその支持政党がはっきり分かれた。現時点での得票率については、各メディアや調査会社によってバラつきがあり、公式なものではないが、各候補者の得票率は以下のとおりである。

〈候補者得票率〉

公正発展党：レジェップタイプ・エルドアン 51.6%（全国的に勝利）

共和人民党／民族主義者行動党：エキレメッティン・イフサンオール 38.5%

（エーゲ海から地中海沿岸地域で勝利）

人民の民主主義党：セラハッティン・デミルタシュ 9.8%（南東部で勝利）

評価

エルドアンの勝因は二つあると考えられる。一つは、エルドアンに匹敵するだけの強力な対抗馬がいなかったこと、もう一つは、これまでの功績が評価されたことであろう。

最大野党の共和人民党（CHP）と野党第二党である民族主義者行動党（MHP）の両党は早い段階で連合を組むことを表明し、エキレメッティン・イフサンオールを統一候補として据えた。イフサンオールはイスラーム協力機構（OIC）の事務局長を長年勤めた人物で、エルドアンの対抗馬として AKP 支持者票の取り込みも視野に入れての人選だった。しかしながら、敬虔なムスリムでギョル大統領とも懇意とされる同氏を候補者として擁立したことで、建国以来の国是である世俗主義を支持する議員や有権者らの反発を招き、CHP 党内が分裂してしまった。一枚岩で選挙戦を戦えなかった事が決戦投票まで持っていけなかった敗因であろう。一方、人民の民主主義党候補のデミルタシュは得票率が6~9%と予想されていただけに10%近く票を得られたのは善戦したと言える。

勝因の二つ目は、エルドアンが10年にわたり行ってきた政策が、ある程度国民に評価されているということだろう。経済発展と国内の民主化は過去10年で飛躍的に成長した。労働人口に占める若年層の割合が高く、外国からの投資も見込める状況にはあるものの、このまま右肩上がりの成長を続けられるかは、自身の政権運営にかかっている。地方を中心に熱烈な支持

者を持つエルドアンだが、外交では隣国のイラク、シリアとの関係、内政ではギュレン教団との確執やクルド問題、自身の汚職等、多くの難問を抱えている。52%という数字をかりうじての過半数ととるのか、当たり前過半数ととるのかは、エルドアン自身がこの数字をどのように感じているのかによるのではないだろうか。

関連するかわら版は以下をご参照願います。

「トルコ：エルドアン首相の出馬表明」No. 76 (2014/7/2)

URL : <http://www.meij.or.jp/members/kawaraban/20140702154326000000.pdf>

(金子研究員)

---

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799